



日本語案内

ブラッククリーク・パイオニアヴィレッジでは歴史建造物や工芸品をお楽しみいただけるだけでなく、当時の生活様式、習慣、人々を取り巻く環境といった現在のトロントを築いた礎をご覧になれます。再現された十九世紀半ばの小さな村めぐりをお楽しみください。

ヴィレッジ内を廻るときにこの案内書をご利用ください。案内書の番号は地図の番号と対応しています。地図はビジターセンター内の受付で入手いただけます。

ブラッククリーク・パイオニア・ヴィレッジはトロント地区保存管理局の事業です。

1. 金物屋 とブラッククリーク・ マソニック・ロッジ

(1850年頃 ウッドブリッジ)
風呂桶からの料理用ストーブのパイプまであらゆるブリキ製品を作った。マソニックオーダーは慈善団体で、会員たちはこの二階で親睦をはかった。

2. ダニエル・ストーングの穀物倉
(1825年 現在地)
ストーング農場で収穫した小麦を出荷するまで納めておいた。

3. ヘンリー・スナイダーのアップルサイダー製造所
(1840年頃 ノースヨーク)
この時代唯一現存する丸太作りのもの。収穫時には近隣の人々が合同でアップルサイダー作りを行った。

4. 消防所
(1850年 ノースヨーク)
トロントで使用されていた 1837年製のポンプ車。村の消防団はボランティアで成り立っていた。

5. 馬具職人の店
(1845年頃 ノースヨーク)
手綱や鞍といった革製品の製造や修理を請け負った。

6. りんご貯蔵室
(1850年頃 エッジリー)
りんごや根菜類を貯蔵した。地下室にわらを敷き詰めてあるので冬の間も凍らなかった。

7. 鶏小屋
(1860年頃 ケトルピィ)
シンプルな丸太小屋は家禽を猛禽類などから保護した。

8. ダニエル・ストーングの豚小屋
(1825年頃 現在地)
豚は育て易く肉を供給してくれる大切な家畜だった。肉は塩漬け、薫製、あるいは溶液につけて保存した。

9. ストーング家の最初の家
(1816年 現在地)
ダニエル・ストーングが最初に建てた家。頑丈な丸太小屋から彼の開拓者としての技量がうかがえる。

10. ダニエル・ストーングのスモークハウスと屠殺場
(1816年 現在地)
豚を屠殺して、年間を通じて肉を食べられるように薫製等にして保存した。

11. ヘンリー・スナイダーの屋外便所
(1820年頃 ノースヨーク)
この時代の唯一現存する丸太作りのもの。

12. ストーング家の二番目の家
(1832年 現在地)
ダニエル・ストーングが入植から十六年後に建てた家。この立派な家はストーング家の十六年間の生活を物語っている。

13. ラスキー商店と郵便局
(1856年 ラスキー)
郵便局を兼ねていた雑貨店の面影をしのばせる。

14. ハーフウェイハウス・インの煉瓦のオープン
(1850年頃 ヴォーン)
この大きなオープンは一度に二十五斤のパンを焼くことができる。宿泊客のためにパイやケーキも作った。

15. ライムハウス屋外便所
(1840年頃 ジョージタウン)
この印象的な小さな建物は、当時としては珍しい三人がけのトイレになっている。

16. ハーフウェイハウス・インとレストラン
(1849年 スカーボロ)
この宿は駅馬車の停車場で、農民の社交の場でもあった。現在、地下はビール醸造所とレストランになっていて、試飲や食事ができる。

17.フリンハウス
(1858年 ノースヨーク)
靴職人とその家族の家。カナダへ移住したばかりの職人の暮らしぶりがうかがえる。

18. バーウィックハウス
(1844年 ウッドブリッジ)と納屋(1860年頃 ウッドブリッジ)
中流階級の住居。みごとな家具や調度品が置かれ、りっぱな厩舎と馬車置き場があり、庭が広がっている。

19. ディクソンズ・ヒル学校
(1861年 ディクソンズ・ヒル)
典型的な複式学級の学校。オンタリオ州公立教育の創設者エッジャートン・ライアソンの推奨する設計に基づいている。

20. ロ布林製粉所
(1842年 アメリカスバーク)
五階建ての石造りの製粉所。上射式の木製水車で小麦をひいている。

21. テイラー桶製造所
(1850年頃 パリス)
桶や樽など木製容器の製造を請け負っていた。

22. フィシャーヴィル教会
(1856年 ソーンヒル)
ギリシャ復興様式の教会は見事なオンタリオ歴史建造物の一例。現在も年間を通して結婚式が行われていて、予約を受け付けている。

23. タウンライン墓地
1845年から 1920年代にかけて使用された。ストーング家、カイザー家、フーパー家、ポイントン家など初期の入植者が眠りにについている。

24. 教会の馬車置場
(1860年頃 ヴォーン)
日曜礼拝に集う人々が馬車や馬をつないでおいた。

25. リッチモンドヒル牧師館
(1830年頃 リッチモンドヒル)
長老派教会の牧師の住居。木材を積み重ねた壁は 15〜20cmの厚みがある。

26. ローズ鍛冶屋
(1855年 ノーブルトン)
初期の鍛冶屋は鉄製の農器具や家庭用具の製造に従事した。

27. ダニエル・フリン靴製造販売店
(1858年頃 トロント)
村の靴屋。靴の製造道具や木型が置かれている。

28. 家具職人の店と子ども歴史広場
(1867年頃 セプリングヴィル)
木製家具の製造と修理を請け負った。子ども歴史広場では、羊毛をすいたり丸太小屋を組み立てるなど、家族そろって昔の生活を体験できる。

29. 医師の家
(1830年頃 ブランプトン)
医師と診療所の存在は、ブラッククリークのような小さなコミュニティに安堵感をもたらした。庭には薬草が栽培されている。

30. ブラッククリーク印刷所
(1850年 ケトルピィ)
もとは禁酒運動の集会所だったが、現在は 1860年代の印刷所と織物店になっている。

31. チャールズ・アーヴィン織物店
(1850年 ケトルピィ)
1860年代のオンタリオでは、機械化以前の職工による商いがふつうに見られた。

32. マッケンジー・ハウス
(1830-50年頃 ウッドブリッジ)
村の仕立て屋。縫い物や手直しを請け負った。この小さな丸太作りの家は 1850年代に台所を増築した。

33. マッケンジー家の納屋
(1850年頃 ウッドブリッジ)
こじんまりした納屋は馬や馬車の車庫にもなった。(一般には非公開)

34. 村役場
(1858年 ウィルモット郡区)
村議会、巡回判事による裁判、集会、音楽会、地域の行事などが行われた。今では年間を通して結婚式を行っていて予約を受け付けている。

35. 村役場の馬車置場
(1860年頃 ミルバートン)
村役場や役場前の芝生に用事のあるときは、L字型の車庫に馬や馬車を停めておいた。

36. イベント・パビリオン
コンサート、フェスティバル、イベントが行われる。控え室付きのステージと 250人まで収容できる客席スペースがある。私的な行事にも利用できる。スナックバーと洗面所も整えられている。

37. 写真館
(1850年頃 ボルトン)
賑やかな村役場の近くなので、行商人が仮店舗を出すには好都合の場所だった。個人のカメラで記念撮影も出来る

11. ヘンリー・スナイダーの屋外便所
(1820年頃 ノースヨーク)
この時代の唯一現存する丸太作りのもの。

12. ストーング家の二番目の家
(1832年 現在地)
ダニエル・ストーングが入植から十六年後に建てた家。この立派な家はストーング家の十六年間の生活を物語っている。

13. ラスキー商店と郵便局
(1856年 ラスキー)
郵便局を兼ねていた雑貨店の面影をしのばせる。

14. ハーフウェイハウス・インの煉瓦のオープン
(1850年頃 ヴォーン)
この大きなオープンは一度に二十五斤のパンを焼くことができる。宿泊客のためにパイやケーキも作った。

15. ライムハウス屋外便所
(1840年頃 ジョージタウン)
この印象的な小さな建物は、当時としては珍しい三人がけのトイレになっている。

16. ハーフウェイハウス・インとレストラン
(1849年 スカーボロ)
この宿は駅馬車の停車場で、農民の社交の場でもあった。現在、地下はビール醸造所とレストランになっていて、試飲や食事ができる。

17.フリンハウス
(1858年 ノースヨーク)
靴職人とその家族の家。カナダへ移住したばかりの職人の暮らしぶりがうかがえる。

18. バーウィックハウス
(1844年 ウッドブリッジ)と納屋(1860年頃 ウッドブリッジ)
中流階級の住居。みごとな家具や調度品が置かれ、りっぱな厩舎と馬車置き場があり、庭が広がっている。

19. ディクソンズ・ヒル学校
(1861年 ディクソンズ・ヒル)
典型的な複式学級の学校。オンタリオ州公立教育の創設者エッジャートン・ライアソンの推奨する設計に基づいている。

20. ロ布林製粉所
(1842年 アメリカスバーク)
五階建ての石造りの製粉所。上射式の木製水車で小麦をひいている。

21. テイラー桶製造所
(1850年頃 パリス)
桶や樽など木製容器の製造を請け負っていた。

22. フィシャーヴィル教会
(1856年 ソーンヒル)
ギリシャ復興様式の教会は見事なオンタリオ歴史建造物の一例。現在も年間を通して結婚式が行われていて、予約を受け付けている。

23. タウンライン墓地
1845年から 1920年代にかけて使用された。ストーング家、カイザー家、フーパー家、ポイントン家など初期の入植者が眠りにについている。

24. 教会の馬車置場
(1860年頃 ヴォーン)
日曜礼拝に集う人々が馬車や馬をつないでおいた。

25. リッチモンドヒル牧師館
(1830年頃 リッチモンドヒル)
長老派教会の牧師の住居。木材を積み重ねた壁は 15〜20cmの厚みがある。

26. ローズ鍛冶屋
(1855年 ノーブルトン)
初期の鍛冶屋は鉄製の農器具や家庭用具の製造に従事した。

27. ダニエル・フリン靴製造販売店
(1858年頃 トロント)
村の靴屋。靴の製造道具や木型が置かれている。

28. 家具職人の店と子ども歴史広場
(1867年頃 セプリングヴィル)
木製家具の製造と修理を請け負った。子ども歴史広場では、羊毛をすいたり丸太小屋を組み立てるなど、家族そろって昔の生活を体験できる。

29. 医師の家
(1830年頃 ブランプトン)
医師と診療所の存在は、ブラッククリークのような小さなコミュニティに安堵感をもたらした。庭には薬草が栽培されている。

30. ブラッククリーク印刷所
(1850年 ケトルピィ)
もとは禁酒運動の集会所だったが、現在は 1860年代の印刷所と織物店になっている。

31. チャールズ・アーヴィン織物店
(1850年 ケトルピィ)
1860年代のオンタリオでは、機械化以前の職工による商いがふつうに見られた。

32. マッケンジー・ハウス
(1830-50年頃 ウッドブリッジ)
村の仕立て屋。縫い物や手直しを請け負った。この小さな丸太作りの家は 1850年代に台所を増築した。

33. マッケンジー家の納屋
(1850年頃 ウッドブリッジ)
こじんまりした納屋は馬や馬車の車庫にもなった。(一般には非公開)

34. 村役場
(1858年 ウィルモット郡区)
村議会、巡回判事による裁判、集会、音楽会、地域の行事などが行われた。今では年間を通して結婚式を行っていて予約を受け付けている。

35. 村役場の馬車置場
(1860年頃 ミルバートン)
村役場や役場前の芝生に用事のあるときは、L字型の車庫に馬や馬車を停めておいた。

36. イベント・パビリオン
コンサート、フェスティバル、イベントが行われる。控え室付きのステージと 250人まで収容できる客席スペースがある。私的な行事にも利用できる。スナックバーと洗面所も整えられている。

37. 写真館
(1850年頃 ボルトン)
賑やかな村役場の近くなので、行商人が仮店舗を出すには好都合の場所だった。個人のカメラで記念撮影も出来る

38. エッジリー・メノナイト集会所の馬車置き場 (1860年頃 ホーンバイ) かつては集会の参加者が利用していたが、現在は農耕用の荷馬車が置かれている。

39. エッジリー・メノナイト集会所 (1823年 エッジリー) 丸太作りの建物はオンタリオで最も古い集会所で今でもオリジナルの家具が揃っている。結婚式の予約も受け付けている。

40. ほうき職人の店 (1844年 シャーウッド) 以前は複式学級の学校や住居だったが、現在はほうき職人の住まいと作業場になっている。

41. 兔子屋 (1860年頃 エッジリー) 鼓勵孩子養寵物兔提供早期的責任心和體貼的訓練。

42. スナイダー馬車置き場 (1850年頃 ノースヨーク) 車庫のほか倉庫としても使用された。

A. スナイダー作業場 (1840年頃 コンコード) 教育プログラム専用のため非公開。プログラムは要予約。

B. サミュエル・ストングの家 (1855年頃 ヴォーン) 教育プログラム専用のため非公開。プログラムは要予約。

お食事処
お食事には次のオプションがございます。

- ビジターセンター内のギフトショップではサンドイッチやペーストリー、お飲物をご用意いたしております。

- パビリオンの「バーベキュー」(#36)ではハンバーガー、ホットドッグ、フレンチフライなどをお試しいただけます。

洗面所はビジターセンター、パビリオン(#36)、ハーフウェイハウス(#16)地階にございます。

ギフトショップへようこそ！

ビジターセンター内のギフトショップではキャンディや書籍のほか、十九世紀の地図や新聞も取り揃えてございます。また、パイオニア・ヴィレッジの職人が十九世紀の製法でしつられた工芸品もご用意しております。



開拓初期のオンタリオではビールは暮らしに欠かせないものでした。お祝い事があれば今日と同じようにビールで祝杯をあげましたが、ふだんの食事でもふつうに飲まれるほど不可欠なものでした。

ビール醸造所では、材料のしこみから人々の喉を潤すまでの、ひとつおりの過程を説明しております。

ヴィレッジのビール職人は十九世紀と同じ方法でビールを醸造しています。どうぞお楽しみ下さい。

お楽しみいただくために次のオプションをご用意しております。

- ガイド付きビールツアー(試飲有り)

- ヴィレッジで醸造されたビールの販売



ビジター案内書

日本語版

